

数 専 会 だ よ り

発行人 東京女子大学同窓会数専会会長 松本友子

〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-23-11

Tel. 03-3395-4448 Fax. 03-3395-0084

<http://www.geocities.jp/twcumath/index.html>

【総会報告】

日時 平成24年6月2日(土)
於 72年館1階ラウンジ
次第

1部 総会議事

1. 会長挨拶
2. 各部活動報告
3. 2011年度 決算報告
4. 会計監査報告
5. 2012年度 予算案
6. 夏季研修会について
7. 研究部講座報告
8. 常任幹事交代について
9. 同窓会より

2部 講演会

矢矧かつ子氏による講演会「数専会パソコン勉強会のはじまりについて」

1部 総会議事

2. 各部活動報告 (6ページ参照)
3. 決算報告 (6ページ参照)
4. 会計監査報告 (6ページ参照)
5. 予算案 (6ページ参照)
6. 夏季研修会について
東京女子大学72年館2階研修室にて開催されました(2ページ参照)。
7. 研究部講座報告
各講座の代表者より講座の内容、会費等が紹介されました。
現在の研究部講座は、7ページ参照。
8. 常任幹事交代について
◎印の幹事が新しく推薦され、総会で選出、承認されました。

会長、副会長、常任幹事は次のとおり。

会長	松本 友子(S48)
副会長	小畑 葉子(S44)
庶務	武田 紀子(S45)
厚生	鍋田 茂子(S54)
研究	大井美智子(S49)
	廣瀬加代子(S49)
広報	中陳きよみ(S45)
	渡辺 信子(S50)
会計	青柳 陽子(S51)
	◎可兒 恵子(S51)
書記	岩崎えり子(S53)
HP担当	鍋田 茂子(S54)
会計監査	吉益美恵子(S42)
	大島 治美(S52)

なお、次の方が退任されました。

長い間、数専会のためにご尽力下さりありがとうございました。

会長	多羅尾千恵(S43)
副会長	桜井 典代(S43)
庶務	古館 康子(S44)

9. 同窓会より

平素パソコン講師の派遣をはじめ格別の御協力を賜り厚く御礼申し上げます。東日本大震災に際しお寄せいただきました義捐金は、4つの被災支部(岩手支部・宮城支部・福島支部・茨城常陸むつみ会)へ均等配分致しました。安全確保のため、防災マニュアルを作成し、夏に72年館の防災工事を行いました。母校創立100周年のための企画11月3日講堂で開催するコンサートには是非ご参集下さい。

2部 講演会

私達が学生の頃は、数学科の卒業生の就職口は、学校の教師か天文台、大学の研究室、統計局などしかありませんでした。しかしコンピューターの出現で、就職口はビジネスの世界へと一気に広がりました。

大型コンピューターがビジネスの世界で重要になってくると同時に、コンピューターも小型化して、パーソナルコンピューターの時代へと変わって行きました。パソコンはタイプの機能と計算機能を備えていたからです。と言うことは、タイプライターが不要になってきたということです。同窓会にあった当時最新の、ボールタイプの電動タイプも時代の波に押されて、遂に廃棄処分となることになりました。それを聞いて、丁度いい機会とお願いして数専会のパソコンを置かして頂くことにしました。これが数専会のパソコン勉強会のはじまりです。



矢矧かつ子氏の講演

【ごあいさつ】

会長 松本 友子(S48)

日頃は数専会活動に、ご理解、ご協力を賜り心より感謝いたしております。8年間、会計として会のお手伝いをさせていただきましたが、今年度より会長として会の運営に携わることになりました。

私自身、学生時代には良い友人に恵まれ、卒業後も、数専会で、良き先輩、後輩に出会うことができました。同じ学問を志した者同士、気持ちが通じあうのかもしれない。

卒業後の人生におきましても、皆様がより良い時間を過ごされますための一助に数専会がなればと願っております。

「学びの場」「出会いの場」「交流の場」として、より多くの方が集えますよう、幹事の皆様と共に頑張りたいと思います。皆様の御参加をお待ちしております。

【秋の講演会のご案内】

日時 平成24年12月8日(土) 午後1時半～3時半

場所 72年館2階集会室

講師 渡辺清明氏

慶応義塾大学名誉教授

NPO法人東京臨床検査医学センター理事長

日本臨床検査専門医会会長

演題 『血液検査値の見方を学ぼう』

会費 1000円

お申し込み・お問い合わせ

Tel

E-mail

小畑 葉子

準備の都合上、必ずご連絡ください。

【夏季研修会】

日時 平成24年7月7日(土)
 於 東京女子大学72年館2階集会室
 *講演要旨(3ページ)
 *夏季研修会の感想を下記に掲載



講師紹介

◇岡部恒治氏
 数学者。現在、埼玉大学名誉教授。独自の算数・数学教育を実践し、体感型ミュージアム「リスピーア」を監修。著書に、『分数ができない大学生』(東洋経済新報社、この本で2006年に小川洋子さんなどと同時に数学会出版賞を受賞)、『通勤数学1日1題』(旺紀書房)、最近『身近な数学記号たち』(オーム社)を書き上げた。

プログラム

- ◇11時半～13時
 昼食・懇親会
- ◇13時半～15時半
 「遊びから入る数学」

手を動かし頭を動かして知的教育玩具を作ります。出来上がった玩具は、幼児から大人までそれぞれの数学レベルでそれなりに面白く遊べます。お子様、お孫さんも、もちろんご本人も楽しめます。それは、その玩具の奥に深い数学的裏付けがあるからです。楽しみながらどのくらい奥まで探ることができるでしょう。

埼玉大学経済学部名誉教授
 日本数学協会副会長
 岡部恒治氏

【夏季研修会に参加して】

「遊びから入る数学」

茶園幸子(S44)

在学中、私たち数理学科の何人かは、「都数集(東京都数学科学生集合)」という集合に参加していました。都数集ではいろいろの大学の数学科の学生がいろいろな自主ゼミを行っていましたが、東京女子大ではトポロジーのゼミを行っていました。そのメンバーの一人が岡部恒治先生でした。私たちより1学年上でいらしたので、仲間というより、教えてくださっていました。当時から岡部先生は、立体図形やゲームなど、遊びの中の数学をよく教えてくださいました。

その後、私が高校の教師として現職であった頃に、教科書の編集者としてお名前を見つけたり、様々な研修会や講演会でお会いして、そのご活躍を拝見していました。

昔と変わらず、手と頭を使って遊ぶ楽しいものでした。今回も作業中心の講演で、2種類のおもちゃを作りました。

1. 「裏返しパズル」

表が赤、裏が黄色の固い画用紙16個の直角2等辺三角形の型紙と、作り方のプリントが用意されていました。この画用紙の型紙の4個をセロテープで合わせ正方形を作り、それを4つ並べてまたセロテープでつなげて輪にしたものを作ります。この輪を裏返すのです。すべての辺の長さを考えると、ぎりぎりの長さでやっと裏返せるので、裏返すのは大変です。

1回成功しても、もとに戻せない、すなわち2回裏返すことができませんし、裏返し方を1, 2回裏返されただけではできません。

お土産として、直角2等辺三角形の代わりに、直角3角形4つを合わせたひし形を4つ並べて輪にする型紙を頂きました。

2. 「たたみかえ折り紙6角形」

正3角形10個が並べて描かれた帯のような設計図が用意されていて、この設計図を山折り1回、谷折り2回で正6角形に組み立てて、貼りあわせます。

これは、裏表のない曲面として有名なメビウスの輪の長さを小さくしていき、最後に平面になるように折りたたんだものももになっている、トポロジーの理論を応用したおもちゃです。

この、組み立てられた正6角形の1つの正6角形の面を面①とします。裏側にもう1つの面があり、これを面②とします。また、最初の正6角形の中心から開くとまた違う面③がでて、合計3つの面がでる3面折りです。

3面折りの次には、6面がでる6面折りに挑戦しました。

6面折りは、なかなか6面がでなくて、でも、3角形の中を見るとまだでていない面の一つが見えている、なんだかそのでない面が不思議な異次元に思えたりして、遊びながら、数学の奥深さを体験した気がしました。

お土産に、5面折り、7面折りの設計図がっていました。

どちらのおもちゃもお土産を頂きましたので、皆様、家で続きをなさったそうです。

「裏返しも、壊れてしまうほどやって習得しました。手を動かしていたら、癒されて気持ちが落ち着きます。」という方もいらっしゃいました。できないとおっしゃって、私のゼミの時にお持ちになった方もいらして、さすがに数専会の方々は好奇心旺盛だなと思いました。作業時間を減らして先生のお話をもっとお聴きしたかったという声もありました。

先生ご自身も、予定していたのにできなかったことがあり、それがお心残りだったそうです。

3角柱(上面3角形は斜めで、その頂点の高さが各々a, b, c 底面積S)の体積 $V = (a+b+c) S/3$ の模型をお持ちで、その説明をなさりたかったということです。

この公式は、正n角柱に応用できて、中学入試用の塾でも使われているのを見ました。

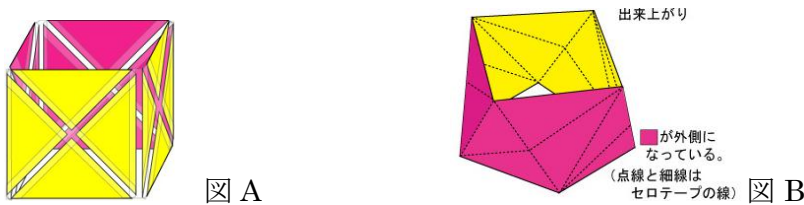
続きのお話をうかがうために是非また講演をお願いしたいと思います。

~~~~~  
 夏季研修会の詳細はホームページをご覧ください。



### I 裏返しパズルで遊ぶ

まず、裏表のある正方形の厚紙4枚を用いて、パズルを作ります。手順としては、まず4枚の正方形に2本の対角線をひき、その線に沿って16個の三角形に切り抜きます。そして、その三角形4個ずつを隙間をあけてセロテープで貼り4つの正方形に戻します。その正方形をセロテープでつないで輪のような形にします(図A)。



**遊び方：**三角形の部分は曲げないで、セロテープのところを曲げて裏返しをします。

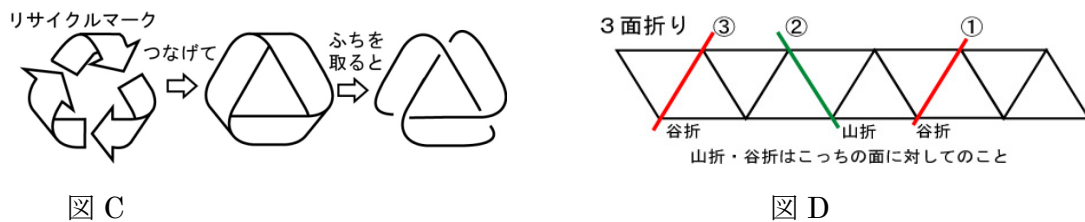
### II これを少し変形して私たちが作ったパズル

厚紙を8枚の長方形にして、4つの菱形ができるように切ります。それをつなげたものが私たち(染谷・岡部・長谷川)の提案(図B)。ほんの少し手を加えただけで様相が一変します。

以上2つのパズルは、それを解く中で、図形の対称性の利用と解いたときにそれを発表するための論証的な訓練に役立ちます。

### III たたみかえ折り紙六角形

長方形の紙の両端を普通にくっつけると帯になります(Iで作ったものもその一種)。これを1回転半してくっつけると、リサイクルマークをつないだ帯ができます(図C)。



この帯の端は、最も基本的な結び目である三つ葉結び目が出てきます。

この長方形の幅を目いっぱい広げてつなげたものが面白い性質をもつのです。長方形を1回転半してくっつける操作は、なかなか難しいものですが、図Dのような三角形10個からなる平行四辺形を谷・山・谷の順に折って、両端を入れ替えてから、最後に両端の三角形をくっつければ、作ることができます。

できたものは正六角形になりますが、その名のとおり「たたみかえ」をすると別の面が出てきて、子どもたちを驚かすことができるのです。図Dの型紙からは3つの面を出すことができます。でも、3つの面だけではすぐ飽きるので、今回はさらに6つ(あるいは7つ)の面を出す形を作りました。



## 【今様今昔物語】

北川 道子(S54)

早いもので、大学を卒業して 30 年以上経ってしまいました。その間、一度転職をしたものの、一貫して IT 企業で「会社員」をしてきました。「一貫」というとえらそうですが、淡々と日々こなしているうちに、いつの間にやら 30 年以上経ってしまった・・・というのが実感です。

仕事としましては、最初はプログラマーとして入社、その後、様々な製品の性能や使い勝手のテストや評価、データベースの技術者、テクニカル・セールス、セールスの後方支援を行うチームの取りまとめ、セールスや技術者のスキルアップ支援などを行って現在に至っています。

また最近では、社内のキャリア・コンサルタント・チームの一員として社員のキャリアの悩みを聞いたりもしています。

ところで、この 30 年余りの間に仕事を取り巻く環境が著しく変わりました。10 年一昔とはもうかなり前の話。最近では 5 年・・・いえ 3 年一昔くらいの感覚でしょうか。そんな変化をちょっと振り返ってみたいと思います。思いつくままとりとめのない話になってしまうかもしれませんが、ご容赦ください。

## ～仕事を取り巻く社会環境の変化～

私が社会人になりたての頃は、まだ求人も男性と女性に分かれていて女性は残業時間にも制約が大きく、給与体系も異なっていました。雇用機会均等法ができて、(少なくとも表面上は?)そういったあからさまな男女格差はなくなりました。最初に勤めていた会社で事務職の女性が退職された後、技術職の女性達に朝のお茶入れをして欲しいと課長に言われたときに仲間と一緒に激しくたてついて課長を困らせたのも懐かしい思い出です。

当時は、結婚退職、あるいは子供が生まれたら退職・・・というのが一般的でしたが、先輩方の努力の積み重ねもあり、今では子供が生まれても上手に周りの協力を得ながら、仕事を続ける女性も増えました。ワーキング・マザー達の集中力や柔軟性、気持ちの切り替えの上手さなどは見習うところが多いと思っています。

## ～仕事環境の変化～

仕事を始めた頃は、まだ大型コンピューターの時代、それもまだ入力にカードを使っていた時代でした。新人の朝一番の仕事は、夜の間に出力されたプリントアウトと入力カードの束をマシン・ルームから運ぶことでした。作ったプログラムのテストも、実機に掛けられるのは多くて 1 日に 2 回程度でしたので、できるだけミスなく流すために「机上デバッグ」は欠かせませんでした。こんな言葉ももう死語ですね。

少しして、日本語のワープロ専用機が 100 万円を切った・・・と話題になったのをうっすらと覚えています。今ではレポートもメールも(この文章も!)みんなパソコンで活字にできるので、下手な字を見られなくてすむようになったのはありがたいことです。

今やインターネットや携帯電話のおかげで、どこでも仕事ができるようにもなりました。会議やセミナーの形態もずいぶん変わり、電話会議、Web 会議、セミナーのリモート参加も増え、逆に会議やセミナーのための出張は激減しました。昨年 3 月の震災直後、予定していたセミナーの外人講師が来日を不安がったため、アメリカやインドからの講義となりました。時差の配慮は必要でしたが、まあ何とかなるものです。

ただ、どこでも仕事ができる代わり、どこまでも仕事が追いかけてくるのは困りものです。パソコンやスマートフォンがあれば、かなりの仕事はこなせてしまいます。長期の休暇中も、戻ってきた時の未読メールの山を思うとついついノートパソコンを開いてしまいがちです。

仕事のスピードは、世の中の変化のスピードと同様、どんどん速くなっていますし、仕事のやり方や求められることも日々変わっています。その変化とスピードに適応していくことを常に求められるわけですが、誰もがそれについていくことができるわけではありません。便利さの裏でストレスを抱えてメンタルな病に苦しみ、仕事を休まざるを得ない人が増えているのも実態です。

## ～就職活動の変化～

今は長い「氷河期」にあるようですが、今ほどではないものの、私達のときも「土砂降り」と表現されていました。

就職活動(今はシューカツ?)も、私達の頃は 4 年生の 10 月 1 日が会社訪問解禁、11 月 1 日が試験解禁、という協定がありました。今は、それが 3 年生にまで早まっています。募集を知るのも今はインターネットがほとんどでしょうが、当時は学校に紙が張り出されるのが主流でした。そんな中で応募するのはせいぜい数社～10 社程度、今はエントリーシートを数十社、多い人は 100 社くらいに送るのも珍しくない様で桁が違いますね。今は情報量が多い分、それを見極めることも難しくなっているでしょうし、迷うことも多くなっているでしょう。情報は少ないのも困りものですが、多すぎるのも悩ましいですね。

これからどんな世界が広がっていくのか・・・。  
10 年後は私ももう会社員を卒業しているでしょうが、そのときに、社会の進歩についていけているのか、マイペースでいるのか、振り回されているのか・・・楽しみでもあり、不安でもありますが、どうせなら楽しんでいきたいものです。

(日本アイ・ビー・エム(株) ソフトウェア事業)



2012 年度勉強会案内

| ゼミ                    | テキスト                                                        | 日時(注)                | 場所                          | 会費/月           | 世話人                    |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------|----------------------|-----------------------------|----------------|------------------------|
| 高村ゼミ('51)             | 数学の流れ30講<br>(志賀浩二著<br>朝倉書店)                                 | 第3火曜日<br>10:20~12:20 | 72年館                        | 2000円          | 早川希尹子('67)             |
| 高校数学                  |                                                             |                      |                             |                |                        |
| 茶園ゼミ('69)             | 4STEP 数学Ⅲ+C<br>(数研出版)                                       | 第2,4木曜日<br>午前        | 武蔵野公会堂                      | 2500円<br>程度    | 渡邊信子('75)              |
| 横浜教室<br>吉田萌子('48)     | 数学Ⅲ4 Step<br>問題集<br>(数研出版)                                  | 第2,4木曜日<br>午前        | ミュージアム川崎<br>研修室<br>(JR川崎駅前) | 1000円<br>程度/回  | 山下伸子('61)              |
| 吉祥寺ゼミ                 | クリヤー数学<br>演習<br>I・II・A・B<br>受験編<br>(数研出版)                   | 隔週金曜日<br>午前          | 武蔵野<br>商工会館                 | 1000円<br>程度    | 富樫照子('62)<br>益田吉子('63) |
| パソコン                  |                                                             |                      |                             |                |                        |
| My パソコン<br>戸塚三重子('66) | プリント                                                        | 第1,3水曜日<br>午前        | 72年館                        | 3000円          | 山田洋子('66)              |
| プラムパソコン<br>荒木純子('75)  | Windows7 入門<br>(プリント)<br>Word による図<br>(立体図形と展開<br>図)の多い本の作成 | 第1,3木曜日<br>午前        | 72年館                        | 5000円          | 大西安子('76)              |
| シニアパソコン<br>矢矧かつ子('51) | Windows7<br>Photoshop4<br>または8での<br>画像の編集                   | 第1,3火曜日<br>午前        | 72年館                        | 5000円<br>程度    | 古川旗江('53)              |
| パズル<br>荒木純子('75)      | プリント                                                        | 第2金曜日<br>午前          | 72年館                        | 10,000円<br>/学期 | 荒木裕子('77)              |
| 多面体<br>荒木純子('75)      | 正多面体を解く<br>(一松信著)                                           | 第4木曜日<br>13:30~15:30 | 72年館                        | 500円<br>程度     | 菊島永子('85)              |

(注) 午前: 10:00~12:00

【研究部より】

今年度の夏季研修会は、7月7日(土)に同窓会館で開催され、多くの方にお集まりいただきました。今回は、埼玉大学名誉教授・岡部恒治先生に「遊びから入る数学」と題し講演いただきました。厚紙などで玩具を作りながら楽しいひと時を過ごし、続きの会を是非開いて欲しいという声が多数寄せられています。

今後の研修会について、ご意見、ご要望がありましたら、研究部までお知らせください。これからも、たくさんの方に参加いただければと思っています。今年度の勉強会の活動は、左記の通りです。自主的に勉強会を開いている方、また開きたいとお考えの方は、研究部までお知らせください。

また、通信教育のような形で勉強してみたいとお考えの方もご連絡ください。勉強会は、講師以外に会員が5人集まればどなたでも開催できます。数専会から年2万円の補助金が出ます。なお、会員名簿と決算報告の提出をお願いします。

\* 研究部 連絡先

大井美智子(S49)  
廣瀬加代子(S49)

数学科の教員になって...

千葉美幸(H24)

私は今年の3月に大学を卒業し、現在都内で数学科の教員をしております。今回、私が数学科の教員という道を志したきっかけでもある、数理学科での学びについて振り返ってみようと思います。

大学に入学した当初は、高校までの「数学」と大学での「数学」に大きなギャップを感じ、戸惑いました。例を挙げれば、高校数学の場合、集合論はベン図を用いて直感的に理解することが多いのですが、大学数学では厳密な定義に基づき、論理式を用いて理解していくため、その違いになかなか慣れませんでした。しかし、日々の授業でのレポートをこなしていくうちに、だんだんと大学数学に慣れていったように思います。

私の一番の思い出は、大学4年次でのゼミです。私は代数学のゼミに所属し、RSA暗号の基礎となる初等整数論について学びました。ゼミで学んでいくうちに、私自身のこれまでの数学に対する見方がとても曖昧で甘かったことに気づかされました。なかでも一番印象に残っているのは、「素数の個数は無限である」という命題です。これまではなんとなく素数の個数は無限にあるのだらうと思っていましたが、素数の個数が有限であることを仮定して証明できた時は本当に驚き、これがきっかけで数学に対する見方が大きく変わっていったように思います。それまではただなんとなく問題を解くだけで終わっていましたが、それぞれの問題をじっくりと考えて解きひとつひとつ自分のものとしていくこと

が出来ようになりました。

又ゼミでは、命題を論理式で書き直し、証明すべきことを把握し、定義を使って証明を進めていくことを繰り返していくうちに、今までみていなかった数学の魅力を見つけられたように思います。さらに自分が発表したり、友人の発表を聞く、質問する、教えあう、ということを通じて、相手にわかりやすく話すということもゼミを通して学びました。こうしてゼミで一緒に学んだ友人は、大学卒業した現在でも大切な友人となっています。それぞれ別々の道に進みましたが、時折集まり、近況を報告しあっています。このように大きな学びを得ることができ、大切な友人を作ることができた東京女子大学での4年間は、私にとって本当に貴重な時間でした。

現在私は、中学・高校で生徒に数学を教えています。大学で数学を学んだ今、中学校の教科書を見てみると、三角形の合同条件さえ私自身が中学生だった頃とはまた違った角度で見えてきて、日々発見の連続です。また、数学が苦手だと言っていた生徒が一生懸命数学の問題に取り組んでくれたり、数学が面白くなってきたと言ってくれたりすることが、仕事をしていく支えとなっています。

大学で学んだことをもとにこれからも学び続け、充実した楽しい日々を過ごしていきたいです。

## いま、福島で

松田京子 (70)

東日本大震災から、二年四ヶ月が過ぎ、少しずつ生活が戻りつつあります。

私が住んでいる郡山市は、原発から、約 60 キロ離れた福島県のほぼ中央に位置し、原発事故で、避難している人達も多く暮らしているところです。小、中学校の校庭の除染、子供達の室内遊び場確保、震災で壊れた建物の改修、撤去が進み、現在は、市内住宅地の除染が進められています。

我が家は、今年 4 月末に、市の除染を受けました。その前に、植木の除染カット、自宅改修時に、屋根、雨樋、外壁などできるところは除染しました。市の除染は庭の表土の入れ替えが主で、除去土壌は自宅で管理せねばならず、保管スペースの確保が大変でした。深さ 1.3m、3m×6m の穴に、何年保管することになるのか、とても気がかりです。空間線量は、高いところで 0.96 $\mu$ Sv/h から

0.33 $\mu$ Sv/h、低いところで 0.35 $\mu$ Sv/h から 0.21 $\mu$ Sv/h に下がりました。それでも計算上の年間被曝量は 1mSv を超えます。また、6 月には、私が保健所でホールボディカウンターの検査を受け、一年間日常的に摂取することにより受けると思われる線量は、1mSv 未満で「問題ない」という結果でした。でも我が家の庭の柚子も、「微量」ながら、放射性セシウム 134、セシウム 137 が検出されています。原発事故がなければ、なかったのですから、考えてしまいます。本当に大丈夫？

亡き姑の実家のあった石巻市を訪ねた時、全て流されてしまう津波の恐ろしさは、想像をはるかに超えるものでした。実際にみてみないとわからないものですね。私達の生活も、いろいろ変わりました。今まで、何気なくしてきたことも、一歩立ち止まって考えてまいります。子育て中の家族は、本

当にいろいろ悩み、その家族にあった答えを出すのが、大変だったと思います。息子家族は昨年 4 月に、福島市から仙台市に転居しました。公園でのびのび走りまわる孫達の姿を見て、ホッとしたのを覚えています。息子は新幹線、車を乗り継いで福島に通勤し、頑張っています。

福島は、避難指示区域で、帰りたいくとも帰れない人、帰れるなら帰りたい人もいますし、放射能に対する不安を持ちながら生活している人、心配してもしようがないと全く気にしない人など、複雑で、難しいです。

除染、中間貯蔵施設建設、増え続ける汚染水、燃料棒取り出しなどなど、本当の意味でフクシマ原発が収束し、放射線量を気にせず、自然を楽しみながら、安心、安全に福島で過ごせる日が早く来るよう、祈っています。

## 園遊会のバザーに参加して 内海香織 (78)

例年通り 4 月 29 日に園遊会が盛大に開催され、今年は私達昭和 53 年卒業生が 10 余名集まり、微力ながらお手伝い致しました。

午後の短時間のみでしたが、数専会お揃いのエプロンをする気分はすっかり売り子です。商品スペースに限りがあるため次々と補充していると、毎年いらして心得ていらっしゃるのか、「3 回目なの、新しい物が出てるかなと思って」とおっしゃるベテランさんや、お知り合いを見かけたからとご一緒して下さる方と、次々と途切れなくお客様もお寄り下さって私達にとっても楽しいひとときでした。

懐かしい顔が集まるきっかけを作って下さった数専会にも感謝しながら帰路につきました。

## 血液検査値の見方(秋の講演会より)

日時 平成 24 年 12 月 8 日 (土)  
於 東京女子大学同窓会 72 年館  
講師 渡辺清明氏

(慶応義塾大学医学部名誉教授)

「血液検査値の見方を学ぼう」というテーマで、血液検査値から健康上の意味や関係する病気についてのお話を伺いました。

参加者は自分の検査データを見ながら、健康を維持するにはどのような注意をすればよいかを学びました。

